

様式11 指定管理者制度活用事業 年度評価シート

指定管理者制度活用事業 年度評価シート

1. 基本事項

施設名称	生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園、川崎市青少年科学館	評価対象年度	令和7年度（令和7年4月～8年3月）
事業者名	・事業者名 生田緑地共同事業体 ・代表者名 株式会社日比谷花壇 代表取締役社長 宮島 浩彰 ・住所 東京都千代田区内幸町1丁目1番1号	評価者	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所長 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館副館長 教育委員会日本民家園長 教育委員会青少年科学館長
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日	所管課	建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所 市民文化局市民文化振興室岡本太郎美術館 教育委員会日本民家園 教育委員会青少年科学館

2. 事業実績

利用実績	〔生田緑地〕利用者数：777,322人、駐車場利用台数：93,013台（内訳：東口駐車場：64,651台、西口駐車場：28,068台、生田臨時バス駐車場：294台）、東口ビジターセンター利用者数：177,560人、西口サテライト利用者数：14,294人 〔岡本太郎美術館〕利用者数：136,927人 〔日本民家園〕利用者数：114,443人 〔青少年科学館〕利用者数：235,440人																																																																																																														
収支実績	＜収入＞指定管理料：489,000千円、利用料金収入（駐車場）：53,573千円、 その他収入（売店等）：18,116千円、雑収入（協賛金等）：6,102千円 計：566,790千円 ＜支出＞管理運営経費等571,762千円（うち間接経費（本部経費）27,226千円） 計：571,762千円 ＜収支差額＞ ▲4,972 千円 ＜（別掲）自主事業＞ 収入：17,025千円、支出：3,603千円 収支差額：13,422千円 ※原油価格・物価高騰及び美術館の改修工事に伴う費用増加分、概算額計約5,607千円を市が補填予定。補填後の収支差額は635千円（参考値）。																																																																																																														
収支内訳	<table><tr><td>■管理運営</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(単位：千円)</td></tr><tr><td></td><td>全体</td><td>緑地</td><td>美術館</td><td>民家園</td><td>科学館</td><td></td></tr><tr><td>＜収入＞</td><td>566,790</td><td>183,336</td><td>139,262</td><td>155,230</td><td>88,963</td><td></td></tr><tr><td>指定管理料</td><td>489,000</td><td>128,225</td><td>134,936</td><td>138,836</td><td>87,004</td><td></td></tr><tr><td>利用料金収入（駐車場）</td><td>53,573</td><td>53,573</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>その他収入（売店等）</td><td>18,116</td><td>913</td><td>1,636</td><td>15,480</td><td>87</td><td></td></tr><tr><td>雑収入（協賛金等）</td><td>6,102</td><td>626</td><td>2,690</td><td>914</td><td>1,872</td><td></td></tr><tr><td>＜支出＞</td><td>571,762</td><td>167,081</td><td>148,869</td><td>158,791</td><td>97,020</td><td></td></tr><tr><td>管理運営経費等（間接経費含）</td><td>571,762</td><td>167,081</td><td>148,869</td><td>158,791</td><td>97,020</td><td></td></tr><tr><td>＜収支差額＞</td><td>-4,972</td><td>16,255</td><td>-9,607</td><td>-3,561</td><td>-8,057</td><td></td></tr><tr><td>■自主事業</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(単位：千円)</td></tr><tr><td></td><td>全体</td><td>緑地</td><td>美術館</td><td>民家園</td><td>科学館</td><td></td></tr><tr><td>自主事業収入</td><td>17,025</td><td>12,349</td><td>1,621</td><td>2,615</td><td>440</td><td></td></tr><tr><td>自主事業支出</td><td>3,603</td><td>1,797</td><td>712</td><td>960</td><td>134</td><td></td></tr><tr><td>収支差額</td><td>13,422</td><td>10,552</td><td>909</td><td>1,655</td><td>306</td><td></td></tr></table>						■管理運営						(単位：千円)		全体	緑地	美術館	民家園	科学館		＜収入＞	566,790	183,336	139,262	155,230	88,963		指定管理料	489,000	128,225	134,936	138,836	87,004		利用料金収入（駐車場）	53,573	53,573	—	—	—		その他収入（売店等）	18,116	913	1,636	15,480	87		雑収入（協賛金等）	6,102	626	2,690	914	1,872		＜支出＞	571,762	167,081	148,869	158,791	97,020		管理運営経費等（間接経費含）	571,762	167,081	148,869	158,791	97,020		＜収支差額＞	-4,972	16,255	-9,607	-3,561	-8,057		■自主事業						(単位：千円)		全体	緑地	美術館	民家園	科学館		自主事業収入	17,025	12,349	1,621	2,615	440		自主事業支出	3,603	1,797	712	960	134		収支差額	13,422	10,552	909	1,655	306	
■管理運営						(単位：千円)																																																																																																									
	全体	緑地	美術館	民家園	科学館																																																																																																										
＜収入＞	566,790	183,336	139,262	155,230	88,963																																																																																																										
指定管理料	489,000	128,225	134,936	138,836	87,004																																																																																																										
利用料金収入（駐車場）	53,573	53,573	—	—	—																																																																																																										
その他収入（売店等）	18,116	913	1,636	15,480	87																																																																																																										
雑収入（協賛金等）	6,102	626	2,690	914	1,872																																																																																																										
＜支出＞	571,762	167,081	148,869	158,791	97,020																																																																																																										
管理運営経費等（間接経費含）	571,762	167,081	148,869	158,791	97,020																																																																																																										
＜収支差額＞	-4,972	16,255	-9,607	-3,561	-8,057																																																																																																										
■自主事業						(単位：千円)																																																																																																									
	全体	緑地	美術館	民家園	科学館																																																																																																										
自主事業収入	17,025	12,349	1,621	2,615	440																																																																																																										
自主事業支出	3,603	1,797	712	960	134																																																																																																										
収支差額	13,422	10,552	909	1,655	306																																																																																																										
サービス向上の取組	原油価格や物価の高騰に伴う経費の増加や、猛暑による外出控え、国際情勢の変化に伴う外国人来園者の減少、岡本太郎美術館展示室休室前の来館等による混雑等がある中で、様々な工夫により、「歴史・文化×みどり」をテーマに、次のとおりサービス向上の取組を行った。 【利用者の少ない季節やエリアにおける活性化に向けた取組】 夏季の生田緑地夜市の開催や、枳形山広場での野外ステージやティラノサウルスレース、西口広場での国際交流イベントである、スポーツ&カルチャーwithTAROマルシェの開催など、利用者の少ない季節やエリアにおける緑地の活性化や魅力づくりの取組を強化した。 【利用マナーの向上】 将来を見据え、各種イベントにおいて生田緑地のルールである「持ち出さない」「持ち込まない」の啓発キャラクターである、「モチコマン」「モチダサン」「とりたま」のぬりえコーナーをイベント出展するなど、子ども向けの取組を強化するとともに、グッズ販売にも注力しながら、積極的な啓発活動を行った。 【緑地内の安全対策】 緑地内の定期巡回の他、大型台風やゲリラ豪雨などの通過後に緑地内点検を行い、危険箇所等について、市やスタッフ間に情報共有を図り、立入禁止のコーン設置や掲示を迅速に行うとともに、利用者の動線確保を図った。また、東屋のテーブルやベンチなどについては経年劣化が進んでおり、目視や触診による異常確認に加え、実際に座ってみた利用者目線での感覚なども取り入れながら、安全点検を強化した。 【地域等と市をつなぐみどりの中間支援組織】 1年を通じ、生田緑地というフィールドを通して、小中学校・高等学校・大学・企業・市民活動団体・地域・市・指定管理者が協働でつながり、各々単独では対応困難な課題について解決していく、市と各主体等とをつなぐ中間支援組織の役割を担った。																																																																																																														

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	8	4	6.4
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	3	3.6
		当初の事業目的を達成することができたか			
	協働の取組	生田緑地マネジメント会議の事務局として適切な運営を行っているか	8	4	6.4
		市民との協働により適切な維持管理及び自然環境の保全を図っているか			
		新たな担い手の発掘に向けた取組を実施しているか			
	魅力の向上	伝統工芸館について、生田緑地の活性化につなげる活用ができたか	8	4	6.4
		施設間の連携・多様な主体との連携により生田緑地全体の魅力の向上が図られているか			
		生田緑地全体広報が戦略的に展開され、魅力発信できているか			
	(評価の理由) 【利用者満足度】 ●利用者満足度を把握するため、紙及びwebフォームによるアンケート調査を適切に実施した。アンケート調査の利用者満足度では、令和7年度は約74%の利用者から「とても満足した」、約23%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約97%の利用者から「満足した」以上の評価を得て、引き続き高い評価となった。（参考：令和4年度約95%、令和5年度97%、令和6年度95%） 【事業成果】 ●月次及び四半期毎のセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行いながら利用者満足度の向上に努めた。事業計画にて設定した“「全国都市緑化かわさきフェア」をピークとせず、アフターフェアも来園者が増加し続けるよう、生田緑地の魅力を伝える運営を目指し”、フェアの開催期間中に実施したイベントの継続や新規イベントの企画・実施に積極的に取り組み、「緑地・施設共に持続可能で、ご利用者にとって安心・安全な維持管理の実施」や「来園者のニーズに寄り添ったホスピタリティの高いサービス提供」、「チームワークによる広報展開」等について、計画通り達成したと認められる。 ・緑地及び各施設の来園（館）者数については、岡本太郎美術館は目標比約163%、民家園では目標比約110.7%となるなど、ほぼ目標を達成した。 ・「夏休み！多摩区エコフェスタ」において、生田緑地で発生したアズマネザサを活用したワークショップや草木染イベントを実施した他、西口サテライトにおける発生材を活用したおもてなし空間の演出、「まちなか向日葵しほり隊」の継続実施など、緑化フェアのレガシーとなる企画や運営を実施した。 ・岡本太郎美術館においては、時勢に合わせた魅力ある展覧会等の開催や展示室休室前の来館等もあり、開館以来最高の入館者数となったが、市と密に連携・協力しながら、これまで培ってきた運営や維持管理のノウハウを最大限発揮し、入館待ちの行列整理や館内の動線設置等、適切かつ柔軟な管理運営を行った。また、アクセスや混雑緩和等に向けた情報等をHP塔で発信し、利用者の利便性の向上に努めた。 ・3月最終週の週末には、桜の見頃の時期に岡本太郎美術館展示室休室前ということも重なり、東西の駐車場において過去にないほどの、駐車待ちの車両による渋滞が発生したが、誘導や警備を強化しながら柔軟かつ適切に対応を行った。 ・夏季の生田緑地夜市の開催や、杣形山広場での野外ステージやティラノサウルスレース、西口広場での国際交流イベントとTAROマルシェのコラボ開催など、利用者の少ない季節やエリアにおける緑地の活性化や魅力づくりの取組を強化した。 ・情報発信については、市の観光施策担当部署や観光協会と連携しPR強化に努めるとともに、HPのリニューアルやInstagramの開設（科学館）等を実施し、国内外に向けた発信強化を図った。 ・初確認した生物種について、記録をデータに落とし込み、生物群ごとの一覧表として纏め始めた他、児童と昆虫捕獲を実施し、生物の学習とともに生物記録の実施を行い、生物モニタリングの取組を推進した。 ・HPやSNSといった既存の媒体や掲示スペースのみならず、近隣商業施設等、新たな広報媒体や広報場所の模索や検討、バズリ効果を意識した情報発信を行い、実施後の効果等を3館等で共有しながら、生田緑地全体の魅力発信を行った。 【協働の取組】 ●生田緑地マネジメント会議の事務局として、明治大学応用植物生態学研究室主催による「生田緑地憲章を考える連続講座」や「長尾3丁目現地見学及び意見交換会」を開催し、自然環境保全管理会議の事務局として、「生田緑地の植生管理計画について考える」をテーマとした運営支援を行うなど、市の施策推進に大きな役割を担った。 ●飛森谷戸の自然を守る会との連携では、ホテル観賞マナーに関する看板設置や夏季における田圃の湧水対応を行った他、かわさき自然調査団の活動支援やもみじ会との連携による竹パウダーワークショップ、横浜保護観察所との連携によるアズマネザサ刈りを行った。 ●向丘小学校4年生の総合学習「地域の魅力発信」の一環で「生田緑地の魅力を広げる学習」がテーマとして決定されたことに伴い、緑地に生息する希少な動植物について出張ガイダンスを行った他、樹勢悪化に伴うソメイヨシノの補植仕上げを近隣の保育園と連携して実施するなど、生田緑地の将来を見据え、子ども達が自然に親しみやすく理解が深まるようなプログラムを考えるなど、地域の世代間交流促進の取組を行った。 ●団体に属さず気軽に参加できる「ゆるボラ」の取組として、緑化フェアで取り組んだ、みどりに関わっていない層、みどりに関心が低い層の取り込みをテーマにみどりや自然に直接関連のないイベント等を利用して活動参加者を募るとともに、侵略的生物の除去（初山の水生植物観賞池のキショウブ除去）を行うなど、ボランティア活動の新たな担い手づくりに向けた取組を進めた。				

【魅力の向上】

●伝統工芸館内での藍染のワークショップやミニ展示、藍を基調とした民家園webサイト内の特設ページの運用、コットンパールネックレスなどの人気商品の開発や通販事業への積極的な参加など、多くの人に藍染の美しさ・すばらしさを発信することを通して、民家園のみならず生田緑地の魅力の向上に寄与した。

●生田緑地とその周辺の回遊性向上を目的に、緑地にある美術館、民家園、科学館、藤子・F・不二雄ミュージアムの4館と登戸行政サービスコーナーを巡るスタンプラリーを開催し、昨年度を上回る約15,636人が参加した。

●親子向けのアットホームなイベント「わんぱくDAY」を初開催。緑地の春の訪れを感じてもらいながら、子どもたちの思い出に残る体験イベントの提供を目的に、白バイや消防車乗車体験、薪割り体験、コースター作り、わくわく子ども縁日、マルシェなどを行い、天候などの影響もあったが2,100名以上の方に来場いただくなど、好評を博した。

●美術館の取組として、テレビやSNSのトレンドを細かくチェックし、“バズ投稿”により多くの方に館の魅力を伝える工夫を行った他、CM撮影を契機とした鉄道事業者とのコラボ企画において、市と連携、協力しながらオリジナルグッズ付き入館チケットでの入館対応や重ね押しスタンプラリー等の実施等に関して柔軟に対応し、美術館の魅力発信及び来館者の満足度向上に大いに貢献した。また、展示室休室前の3月下旬に開催した「たっぷり!!TARO大感謝祭」における音楽ステージやマルシェ等の運営にあたり、安心安全に配慮しながら市と連携・協力し、イベントの盛り上げに貢献した。さらに、子どもから大人まで楽しめる苔玉作りや大風作りのワークショップ等の開催のほか、西口広場におけるGWや週末でのキッチンカーの出店を継続して誘致し、美術館や緑地内での付加価値向上にも積極的に取り組んだ。

●民家園の取組として、園に移築・展示されている合掌造り民家3棟の故郷、富山県南砺市五箇山が世界文化遺産登録30周年を迎えたことを記念し、「五箇山」をテーマとした「日本酒講座」を開催。南砺市観光協会と連携し、古民家とモミジのライトアップにあわせ、五箇山の蔵元による「生活の中の日本酒」のお話や、日本最古の民謡といわれる伝統芸能「こきりこ」の披露、五箇山の隠れた名物である熊汁など、日本酒の販売を行い、「学び」と「愉しみ」の両面から日本酒に触れるイベントを開催し、好評を博した。

●科学館の取組として、「大人も楽しめる花育」の中で、七夕アレンジメントやクリスマスアレンジメントなど、プラネタリウム投影観覧後も施設内で楽しんでもらえるようなイベントを行った他、「プラネタリウム冷えてます」ミニのぼり旗やリボンを用いた接客、かわさきプリン（着ぐるみ）の積極的な活用などに取り組んだ。

●HPやSNSにおいて、緑地及び各館のイベントや展示、見頃を迎えた花や自然の移り変わりを中心に四季折々の季節感のある情報発信に加え、緑地内での日々の小さな気づきや発見をこまめに投稿した他、生田緑地公式のHPでは最初の1ページしか閲覧しなかった直帰率が2月を除き30%台を記録。生田緑地公式のXではフォロワー数が7,600人に達するなど、緑地の魅力を幅広い層に情報発信できるよう工夫しながら投稿を行った。

収支計画・実績

効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	6	3	3.6
	支出に見合う効果は得られているか			
	効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか			
収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	3	3.6
	収入増加のための具体的な取組が為されているか			
適切な金銭管理・会計手続	入館・入園料収入や釣銭等について適切に管理を行っているか	4	3	2.4
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			

（評価の理由）

【効率的・効果的な支出】

●電気料金の高騰に伴い、必要最低限以外の空調機の停止や照明の間引き、不要箇所の消灯、ピークコントロール見直しによる単価上昇抑制と便座温度など小まめな温度管理を行うなど、最大需要電力を抑える工夫を重ね、その結果を毎月各施設責任者が参加する全体会議で報告し、節電に関する意識向上を徹底しながら、コスト削減に努めた。（電気：対前年比約300万円の縮減）

●消耗品について、購入先の比較や横断的管理運営を生かした一括購入によりコスト削減を図った。

●コスト意識を徹底し、自主事業イベントにおけるポスターデザインや会場装飾の内製化、美術館での広報印刷物発送時期の見直し、民家園の常駐技術員による修繕作業の実施など、可能な限り外注と直営で実施した場合のコスト比較を行うなど、コスト削減を図った。

【収入の確保】

●自主事業では、イベントの新規・拡充（夜市、ティラノサウルスレース、コースターWS等）や物販の商品数の拡大（竹パウダー、防災食の販売等）、自動販売機の商品入替（飲料→アイス）等を行いながら、新たな収入源の確保に努めた。

【適切な金銭管理・会計手続】

●納品書・請求書等の伝票管理を適切に行っており、報告書には支出費目ごとの内訳や月別・施設別の事業収支が添付されている。また、各館の観覧料を溜め置きしないよう入金ルールを徹底した上、大型連休の際は本社入金担当と連携し遅延のないよう実施したり、入金機の使用の際には個人コードでログインするセキュリティを強化するなど、適正な管理を行った。

サービス向上及び業務改善

適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	6	4	4.8
	サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
	利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4	4.8
	業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
	業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8
	意見・要望の収集方法は適切だったか（十分な意見・要望を集めることができたか）			
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
（評価の理由） 【適切なサービスの提供】 ●HPやSNS、広報誌等様々な媒体を活用し、各種イベントや四季折々の植物の見頃、園内の一部通行止め等の情報など、幅広い年齢層に適時かつ十分な情報提供を行った。 ●ばら苑の休苑や岡本美術館の展示室休室に伴う公式HPやマップ、緑地内掲示板の修正を適切に実施した。 ●枳形山展望台舞台での能公演や音楽イベントと近隣大学生の作品展示同時開催、初山エリアでの飛森谷戸の自然を守る会との協働強化、西口広場でのキッチンカーの出展継続や市民団体との共催イベントなど、緑地がもつポテンシャルの有効活用や賑わいの創出をはかり、利用者から好評を博した。 ●民家園通り商店会夏祭りでのワークショップ開催及びグッズ販売等の出展、多摩区役所や緑地内各施設・藤子・F・不二雄ミュージアムと連携した区役所やサービスコーナー、幹線道路沿いでのPRポスター等の展示や掲示、登戸駅前スペースでの多摩区内の緑関連施設（緑化センターなど）連絡会への参加等、生田緑地の外での活動を積極的に行った。 ●東口ビジターセンターにおいて、緑地の発生材を活用したオリジナル商品の継続販売に加え、新たに防災食を販売することで、来園者のサービス向上とともに、日常の中で防災意識に触れる機会を創出するとともに、緑化フェアを契機に制作された「ばらサイダー」の販売を継続（現在販売終了）し、年度当初581本あったサイダーが完売するなど、フェアのレガシーを広く浸透させた。 【業務改善によるサービス向上】 ●実施計画どおりにサービスを提供できなかった場合は、毎月・4半期ごとのモニタリングで確認したうえで、その原因を追求し、次回以降はその改善点を踏まえて実施するよう努めた。（例：夏季の集客減⇒生田緑地夜市の開催） ●スタッフの接遇について、昨年度の研修を踏まえ、朝の朝礼やスタッフミーティング時における周知徹底を図った。 ●昨年度指摘のあった科学館の屋上清掃について、排水溝周りの清掃を見直すとともに、溢水等の発生は生じなかった。 【利用者の意見・要望への対応】 ●近隣住民からの草刈り・剪定等の要望や利用者からの苦情や要望に対して、迅速かつ適切に対応するとともに、状況に応じて速やかに市へ報告がなされた。毎月実施するセルフモニタリング等において苦情等の対応記録を市へ適切に報告した。 ●順次実施しているナラ枯れによる倒木の危険がある区域の通行止めについて、来園者に分かりやすいよう掲示物の説明方法を工夫するなど、利用者から意見がある度、改善を行った。また、ナラ枯れによる通行止めやランニングなどの利用ルールなどを適切な場所に掲示し、分かりやすい案内を行った。 ●近隣住民から寄せられた要望についてはデータ化を行い、草刈りや植栽管理などの要望が入る前に対応や予定を組んで作業が実施できるよう、毎年の案件は事前に対応を行い、近隣住民との信頼関係の構築を図った。				

適正な人員配置	必要な人員（人数・有資格者等）が必要な場所に適切に配置されているか			
連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか	4	4	3.2
再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3	1.2
安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか（人員配置、マニュアル、訓練等）	4	3	2.4
	緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	2	3	1.2
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	2	3	1.2
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
市内中小企業の活用	業務の一部委託において市内中小企業者を再委託者として選定しているか	2	3	1.2
障害者雇用	積極的な障害者雇用が行われているか			
（評価の理由） 【適正な人員配置】 ●有資格者等必要な人員を適切に配置するとともに、普段から各施設の担当者等が研修や情報共有を通じて他施設の業務も理解し、構成企業本部の応援体制も構築することにより、岡本太郎美術館入館者過去最高を記録する中でも、人員を融通し、運営に支障を来すことがなかった。 ●令和8年3月末からの岡本太郎美術館展示室休室に伴うショップ等の営業継続交渉や監視ポスト減少に対応した労務管理など、今期の指定管理者公募時には想定していなかった状況に、適切かつ柔軟に対応した。 【連絡・連携体制】 ●各館の業務責任者や施設長等が参加する全体会議を定期的に開催し、情報共有の円滑化に努めた。また、各館の担当者等が参加する工程会議では、工事・展示関係による車両の進入情報や危険個所の情報、委託警備会社からの巡回警備の際に気づいた課題等を共有し管理運営を行った。 ●生田緑地整備事務所の市職員を含めた連絡体制を確立し、迷子やけが等の緊急時における各館への迅速な情報共有及び市への報告を速やかに行った。 【再委託管理】 ●毎月実施している所管課モニタリングにおいて日報や作業写真等の提出を受けており、適切に管理していることが確認できる。また、委託先の責任者がJV会議や全体会議に出席し、情報共有を図った。 【担当者のスキルアップ】 ●各施設のスタッフが集まる研修の開催により各施設の課題の共有、活性化に向けたアイデアを話し合い、本部とも共有することにより、各施設の運営に生かした。 ●利用者に安全・安心な環境の提供に向け、災害発生時にスタッフが迅速かつ的確な初動対応をとり、利用者の安全を確保できるよう、消防防災指導公社の指導のもと、地震・煙・消火についてのスタッフ体験講習会を行った。 【安全・安心への取組】 ●管理用カメラにより、モニターにて随時確認し、有事の際に情報収集ができる体制を維持した。 ●震度4以上の地震、大型台風・ゲリラ豪雨、降雪の際には、迅速にパトロールを行い、危険箇所を把握し、通行止めの措置等を適切に実施した。また、閉館後に震度4以上の地震など予期しない天災が発生した場合には、警備と連携し主要通路の巡回点検が実施できるよう、体制を構築した。 ●多発する各地の大地震に伴う被害等を踏まえ、昨年度東口VＣで見直した「危機管理マニュアル」を踏まえ、指定管理者内においてマニュアルの再確認を行うとともに、緑地内各施設においても対応マニュアルの更新等の作業を進めた。 ●多摩警察署や多摩消防署と定期的な情報交換により連携を深め、アクティブ交番による定期的な巡回や、災害時に求められる対応力の強化を目的とした防火防災に関するスタッフ研修を行った。防火防災の取組については、これまでの取組が認められ、多摩消防署から指定管理者として表彰を受けた。 ●災害時等の緊急時のライフラインとして、引き続き緑地内の全自販機を災害対応型（災害バンダー）とし、使用マニュアルについて最新のものを用意できるよう、バンダーと連携を図った。 【コンプライアンス】 ●リスクマネジメント（Pマーク・ハラスメント防止）に関して各施設でテキストを活用するとともに確認テストを実施し、スタッフのコンプライアンスに関する理解を深めるなど適切な運用に努めた。 ●令和6年の公式Xの誤配信の発生を踏まえ見直したマニュアル等により、スタッフへの研修や定例的なミーティングでの注意喚起を行った。また、構成企業本部とも連携し、各施設において点検シートを活用したセルフチェックを実施しながら、公式X含めたSNS発信について、スプレッドシートを活用し、複数の職員による投稿内容のチェックが実施されるなど、誤配信の再発防止に引き続き取り組むとともに、メール送信を含めた個人情報の安全管理を徹底した。 【職員の労働条件・労働環境】 ●植栽等の維持管理を担当する作業員を対象とした月1回の災害防止協議会を実施するとともに、日常的にこまめな体調管理の声掛けを行った。また、これまで紙面のみで行ってきた協議会について、動画による共有も併用して情報共有の徹底を図るなど、情報伝達の方法にも工夫を施しながら適切な労働条件や労働環境の整備を行った。 【環境負荷の軽減】 ●民家園における囲炉裏の火焚きで出た灰を使った藍液の作成、清掃時のアルカリ性除菌剤や緑地内トイレにおける廃材による竹パウダーの活用、殺虫剤などの使用控え等を行った。 ●不要となった蛍光灯類の他館への融通や空調機器の切り忘れの確認、照明の間引きや不要箇所の消灯を徹底した。 ●「お月見フェスタ」において、オリジナルのエコバッグ等を販売し、レジ袋を持たずに買い物できるよう配慮した。 ●軽微な木道補修等においては、剪定作業時に発生した材等を活用した他、破損及び劣化した木道やベンチ、野外卓を引き上げた際の材について、活用可能な部分を切り取り、再利用した。 【市内中小企業の活用】 ●「森のマルシェ」等において、近隣の店舗を中心に出店してもらった他、清掃や植栽管理、警備業務等において、市内事業者を活用することにより、市内の経済の活性化を図るとともに、生田緑地に対するノウハウを最大限活用し、安全・安心な管理運営を行った。 【障害者雇用】 ●支障木の伐採や除草作業等に従事していた職員の退職により、令和7年度の雇用者数はゼロであった。就労移行支援事業所と連携した障害者の社会復帰支援の取組を行い、作業の現地見学の開催や自主事業イベント時での体験の場の提供を行う中で、受入側の体制構築を含め、雇用に向けた準備作業を進めた。				

適正な業務実施

施設・設備・備品の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備・備品の保守点検や整備、整頓等を適切に実施しているか、また利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	8	3	4.8
管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
外構・植栽管理（建物）	各施設の外構の植栽を適切に管理（草刈、剪定、害虫駆除等）しているか			
清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	4	4	3.2
	各施設の特性に合わせた清掃が行われているか			
警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	4	3	2.4
	各施設の展示監視が適切に行われているか			
樹木等管理	市及び委員会と協力し、緑地及び民家園における植栽・植生管理が適切に行われているか、また日本民家園における支障樹木管理が適切に行われているか	4	4	3.2
	市民活動団体と合意形成を図りながら樹木管理を行っているか			
（評価の理由） 【施設・設備・備品の保守管理】 ●年間業務計画に基づきそれぞれの施設の特性に合わせた適正な業務の遂行に努めており、業務日報等で適切に管理している。また、日常、定期点検を通じて設備不具合及びその兆候を発見した場合は、常駐技術員が対応・処置及び、状況により協力業者へ対応依頼を行った。さらに、各施設で設備・備品の管理簿を作成し、適切な管理、整頓を行うとともに、備品台帳の更新や消耗品等の補充を適切かつ十分に行った。 【管理記録の整備・保管】 ●毎日の施設巡回により、設備や備品の不具合の早期発見と事故の未然防止に努めるとともに、管理記録を毎日の業務日誌に記録している。 【外構・植栽管理（建物）】 ●施設ごとの植栽管理方針に基づき、適切に草刈、剪定等を行い、利用者が快適に楽しめる空間を提供した。 ●新たな植栽が難しい生田緑地内において、企業の装飾技術を生かし、東口ビジターセンターや西口サテライトなどで花や植物による季節感のある明るい雰囲気づくりを行い、施設利用者アンケートにおいて多くの方から「満足」以上の回答を得るなど好評を得た。また、東口花壇でも来園者のおもてなし空間を意識した季節感のある装飾を行った。 【清掃業務】 ●再委託先と定期的に作業内容を確認し、状況に応じた対応を細かく指示することで、「施設の清潔さ」についてのアンケート調査において、98%以上の利用者から「満足」以上の評価を得た。 ●美術館の屋外エレベータ入口床面の苔除去を高圧洗浄に定期化したりするなど、各施設の特性や状況に応じた、柔軟かつきめ細やかな業務を実施した。また、トイレ洗面台や給水機周辺など、水滴が付着し易い場所での転倒防止に向け、分かりやすいPOPを作成するなど、利用者の安全確保を最優先にしながらの業務遂行に努めた。 ●ナラ枯れ通行止め解除やばら苑の一般開放の準備のため、園路等の特別清掃を行うなど、利用者が快適に利用できる環境づくりに適した業務を臨機応変に実施した。 【警備業務】 ●近隣施設との情報交換を行い、イベント等を把握するとともに、時期や天候により駐車場の混雑が予測される際はスタッフを増員した他、駐輪場にも案内係を配置し、車両及び歩行者の安全を確保した。 ●通常の巡回監視エリアだけでなく、夜間帯の広場や駐車場などでの禁止行為のチェックを目的とした警備を行った。 ●多摩警察署等と定期的に意見交換を行い、双方がいつでも相談し易い環境づくりを行った。 【樹木等管理】 ●枯れ枝は落枝等の危険があることから、特に強風時等は巡回を強化し、利用者の安全確保に努めた。さらに、園路沿い等、来園者に危険が及ぶ可能性がある被害木について、伐採を行うなど、適切な樹木等の管理を行った。 ●安全パトロールに精通するスタッフによる第三者パトロールの実施や、樹木フラスの早期発見による伐採などを適切に実施した。 ●環境省による重要里地里山に指定されている「生田の雑木林」保全を念頭に、コナラを主体とする雑木林の再生活動を適切に実施した。 ●民家園では、日常的に園路危険箇所（特にナラ枯れ木）や落枝・倒木の点検を通し、文化財建造物や来園者に危険となる支障木を適宜伐採するなど、適切な支障木管理を行った。				

4. その他加点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点	市の政策課題への取組	全国都市緑化かわさきフェア開催を踏まえた、協働・共創と多様な魅力とみどりを掛け合わせた取組の推進	5	4	4
	(評価の理由)	●これまで継続してきた協働・共創の取組に全国都市緑化かわさきフェアのレガシーを踏まえた生田緑地ならではの魅力ある取組を進め、「川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針」及び「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」とともに、「生田緑地ビジョン」の基本理念である「豊かな自然・文化・人・まちがともに息づきみどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現」に資する取組であると認められる。 ・ナラ枯れ材を含め、緑地内で発生した資源（木材、枝葉、竹材、ササ材）について、これまでの民家園の燻煙活動や薪販売での活用の取組に加え、次のような活用を行った。 全国都市緑化かわさきフェア内における木工旋盤デモンストレーションと木のおもちゃづくりの実施 ナラ枯れ材等の伐採木を使用した器や平皿などの木工品販売 大学の建築学科と連携した竹アーチ制作 竹とアズマネザサを活用した七夕飾りの展示 全国都市緑化かわさきフェア内における竹パウダーねんどワークショップの実施 中学・高等学校との連携によるアズマネザサを活用した取組の実施 ・軽微な木道補修等においては、剪定作業時に発生した材等を活用した他、破損及び劣化した木道やベンチ、野外卓を引き上げた際の材について、活用可能な部分を切り取り、再利用した。 ・市内の生産農家より、市場に出にくい規格外のサイズや形状のサツマイモを仕入れ、ナラ枯れ材や枯死木から発生した薪を活用した焼き芋をつくり、各種イベントで販売した他、民家園での燻蒸作業で得られた灰を伝統工芸館で本藍の液を建てる際に使用したり、落ち葉を堆肥として提供する取組を行った。 ・稲藁のワークショップでの活用や泥上げ時に出た泥の肥料利用に向けた検討を行った。 ・児童発達支援施設での読み聞かせ等の青空保育開催への協力や、幅広い層が参加する健康づくりのヨガやピラティスのイベントなど、地域の交流や健康づくりの場としての役割を果たすなど、地域包括ケアシステムの推進に寄与する取組を行った。 ・園芸家深町貴子氏と連携し、地域社会共生化に向けたSDGsプログラム「まちなか向日葵しぼり隊」を展開し、向日葵の種まきから油絞り、紙すき・団扇づくりを行い、エネルギーの循環を通じた地域共生と循環型社会形成プログラムを実施した他、JAXA研究員を招いたトークセッションを開催し、宇宙開発と地域資源の結びつきをテーマにしたプログラムを実施した。また、このプログラムのもつ社会的価値を広めるため、他都市の施設でも展開し、取組を進めた。 ・生田緑地にとどまらず周辺地域を巻き込んだエリアマネジメントの推進役としての意識を持ち、登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォームに加入した他、向ヶ丘遊園駅南口での地域活性化イベント「えきまえ遊園パーク」に積極的に参加し、会場装飾や薪割体験によりイベントを盛り上げた他、地域スポーツ団体のイベントにも積極的に参加するなど、地域活性化等に取り組んだ。			

5. 総合評価

評価点合計	74.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

6. 事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

●月次及び四半期毎のセルフモニタリングを実施するとともに、苦情・要望について情報共有し、必要な改善や対策を行いながら利用者満足度の向上に努め、常設アンケート調査の利用者満足度では、令和7年度は約74%の利用者から「とても満足した」、約23%の利用者から「満足した」との評価を得ており、合わせて約97%の利用者から「満足した」以上の高い評価を得ている。
●夏季の生田緑地夜市の開催や、枳形山広場でのティラノサウルスレース、枳形山展望台舞台での能公演や音楽イベントと近隣大学生の作品展示同時開催、初山エリアでの飛森谷戸の自然を守る会との協働強化、西口広場でのキッチンカーの出店展継続や民間団体主催の国際交流イベントにTAROマルシェをコラボしたイベントの開催など、緑地がもつポテンシャルの有効活用や賑わいの創出を図った。また、緑地及び3館それぞれの特性を生かした自主事業等を実施し、参加者の約97%から「よかった」以上の高評価を得る利用者満足度の高い自主事業を展開した。
●生田緑地にとどまらず周辺地域を巻き込んだエリアマネジメントの推進役としての意識を持ち、登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォームに加入した他、向ヶ丘遊園駅南口での地域活性化イベント「えきまえ遊園パーク」に積極的に参加し、会場装飾や薪割体験によりイベントを盛り上げた他、地域スポーツ団体のイベントにも積極的に参加するなど、地域活性化等に取り組んだ。
●1年を通じ、生田緑地というフィールドを通して、小中学校・高等学校・大学・企業・市民活動団体・地域・市・指定管理者が協働でつながり、各々単独では対応困難な課題について解決していく、市と各主体等とをつなぐ中間支援組織の役割を担った。
●令和8年3月末からの岡本太郎美術館展示室休室に伴うショップ等の営業継続交渉や看視ポスト減少に対応した労務管理など、今期の指定管理者公募時には想定していなかった状況に、適切かつ柔軟に対応するなど、緑地の安定的な管理運営に寄与した。
●構成企業本部とも連携し、各施設において点検シートを活用したセルフチェックを実施しながら、公式X含めたSNS発信について、スプレッドシートを活用し、複数の職員による投稿内容のチェックが実施されるなど、誤配信の再発防止に引き続き取り組むとともに、メール送信を含めた個人情報の安全管理を徹底した。
●これまで継続してきた協働・共創の取組に加え、全国都市緑化かわさきフェアのレガシーを踏まえた、生田緑地ならではの魅力ある取組や協働・共創と多様な魅力とみどりを掛け合わせた取組を推進した。

7. 来年度の事業執行（管理運営）に対する指導事項等

- これまで実施してきた協働・共創の取組を継続するとともに、全国都市緑化かわさきフェアのレガシーを踏まえ、生田緑地ならではの魅力ある取組の他、他の公園緑地施設等と連携した協働・共創と多様な魅力とみどりを掛け合わせた取組についても、市と共に推進を図っていただきたい。
- ボランティア活動の継承に向け、既存の団体に所属せずに気軽に取り組める「ゆるボラ」の活動を継続・発展し、新たな担い手確保につなげていただきたい。
- 3館及び緑地でのイベント、ワークショップ等についてそれぞれ創意工夫により展開していただいているところであるが、横断的管理運営を生かし、館の垣根を超える取組等についてもさらに充実を図っていただきたい。
- 他施設等との連携を含め、緑地内の維持管理作業による発生材の有効活用に関する取組を継続・発展させていただきたい。
- 引き続き、安全・安心かつ清潔な公園及び施設の維持管理に努めるとともに、創意工夫により効果的かつ効率的な支出及び魅力的な自主事業の実施等により収入の確保に取組み、収支のバランスに注意して業務を行っていただきたい。
- 施設の老朽化が進む中で激甚災害が頻発する現状を再認識し、「備え」の意識を市と共有しながら、今後も引き続き、各施設の特性や状況に応じた、柔軟かつ適切な維持管理の実施をお願いしたい。
- 緑地内の各施設には、コミュニケーションやサポートを必要とされる方も数多く来館（園）されることを意識し、合理的配慮の観点を踏まえ、相手に寄り添った接客に努め、パラムーブメントの推進に一層寄与するよう、スタッフへの周知徹底をお願いしたい。
- 包括外部監査において、売店設置に係る申請内容が実態に即していないことが判明した。今後、売店や自動販売機等、許可申請内容に変化があった場合には、市と協議の上、速やかに変更申請書等の提出をされたい。
- SNS等については、令和6年に発生した誤配信の再発防止に向けた取組が行われていることが確認できた。今後も、公共施設の公式SNSを運用しているという責任を再認識し、引き続き、緑地の魅力向上に向けた広報のさらなる充実を図っていただきたい。
- 来年度も引き続き、美術館の施設改修に伴い展示室は休室となるが、工事に影響のない範囲で館内無料スペースでのミニ企画による作品展示などの取組を予定している。これまでとは一部異なる美術館運営や工事等での制約なども見込まれることから、引き続き、情報共有と協議等への御協力をいただくとともに、効果的な広報や創意工夫等による美術館や西口広場を含めた生田緑地全体の一体的な魅力向上に向けた取組の推進に御尽力いただきたい。
- 東口ビジターセンターの来館者が減少しているが、当施設は、来園者が気軽に立ち寄り、スタッフとの対話を通じて生田緑地の魅力を知ることができ緑地の顔であり、拠点施設である。そのことを再認識し、利用者の満足度向上に向け、さらなる活用促進に取り組んでいただきたい。
- サービス向上に向けて効果的な分析を進めるにあたり、イベント実施回数や来園（館）者数に対してアンケート回答数が少なく、また、回答者の属性に偏りがみられる。アンケート調査等の充実を図り、利用者の動向や意見などを参考に、東口ビジターセンターや初山地区を含め、利用実態の調査・分析を行い、生田緑地のさらなる魅力向上につなげていただきたい。